

【ランチョンセミナー】

ランチョンセミナー 1 レケンビの安全性プロファイルと対応方法～ARIA を中心に～

11月24日(金) 12時20分～13時10分 (第1会場 奈良県コンベンションセンター 1F コンベンションホールA)

共催: エーザイ株式会社/バイオジェン・ジャパン株式会社

座長: 工藤 興亮 (北海道大学大学院医学研究院放射線科学分野画像診断学教室)

富本 秀和 (三重大学大学院/済生会明和病院)

1. ARIA において処方医が知っておくべきこと

演者: 富本 秀和 (三重大学大学院/済生会明和病院)

2. ARIA をどう読み解くか

演者: 工藤 興亮 (北海道大学大学院医学研究院放射線科学分野画像診断学教室)

(概要) アミロイド関連画像異常 (ARIA ; amyloid-related imaging abnormalities) とは, アミロイド β (A β) が関与して起こる MRI 所見であり, 抗 A β モノクローナル抗体を投与した患者で ARIA の発現率が高くなることが知られている. 本講演では, ARIA の基本情報ならびにレケンビの安全性プロファイルと対処方法, ARIA の特徴を解説する.

ランチョンセミナー 2 認知症診療におけるバイオマーカーの適正使用と今後の展望

11月24日(金) 12時20分～13時10分 (第2会場 奈良県コンベンションセンター 2F 天平ホール)

共催: シスメックス株式会社

座長: 山田 正仁 (国家公務員共済組合連合会九段坂病院)

演者: 春日 健作 (新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター)

(概要) 本邦を含め世界中で増加している認知症の約 70% がアルツハイマー病 (AD) による. 病理診断との比較から従来の AD 臨床診断基準の特異度は 60-70% とされ, 30-40% は非 AD を AD と誤診していると考えられる. 脳脊髄液バイオマーカーは脳内病態を反映し, AD の生前診断を可能にした. レカネマブが本邦でも承認され, 認知症診療において今後益々バイオマーカーを用いた診断が重要になる. 本セミナーでは, この度改訂された『認知症に関する脳脊髄液・血液バイオマーカーの適正使用指針』を踏まえ, 臨床現場で脳脊髄液バイオマーカーを活用する際の注意点と, 血液バイオマーカーを含めた今後の展望について述べたい.

ランチョンセミナー 3 認知症診療における漢方薬の新たな可能性

11月24日(金) 12時20分～13時10分 (第3会場 奈良県コンベンションセンター 2F 会議室 201+202)

共催: 株式会社ツムラ

座長: 池田 学 (大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室)

1. 人参養栄湯が身体的フレイルや脳内生理活性物質に及ぼす基礎研究

演者: 榊間 春利 (鹿児島大学医学部保健学科基礎理学療法学講座)

2. フレイル予防を視点に認知症診療を考える

演者: 石田 康 (宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野)

(概要) ① 身体的フレイルや Alzheimer 病モデルである老化促進マウス (SAMP8) を用いて, 人参養栄湯や運動療法の影響を調べた. 人参養栄湯は骨格筋における酸化ストレスを軽減し, 加齢による身体的フレイルを改善させた. さらに人参養栄湯や運動療法は脳内の生理活性物質の発現調節に関与することが示唆された.
② フレイルを伴う軽度認知障害 (MCI), 軽度認知症患者の食欲不振に対する人参養栄湯の有効性および安全性をみた (FRAMINGO 試験; Okahara et al, 2023). 本研究の結果から, 人参養栄湯が MCI および軽度認知症患者の食欲不振, フレイルの改善に有効である可能性が示唆された.

ランチョンセミナー 4 フレイルや認知症の合併を考慮した不眠症の治療戦略

11月24日（金） 12時20分～13時10分（第4会場 奈良県コンベンションセンター 2F 会議室 203）

共催：MSD 株式会社

座長：田上 真次（箕面神経サナトリウム）

演者：小原 知之（国立大学法人九州大学病院精神科神経科）

（概要）不眠症の原因や病態は様々であるが、不眠症に伴う精神運動機能の低下、集中力の低下は社会経済活動への損失をもたらすため、積極的な介入が求められる。不眠症の治療は薬物療法に加えて睡眠衛生指導や認知行動療法など非薬物療法を行う必要がある。とくに高齢者では、高齢特有のライフ・スタイルや心理・社会的な問題が原因で不眠症を引き起こしていることも少なくない。そのため不眠症の治療では、患者の年齢、認知機能、全身状態、社会生活環境を総合的に考慮して薬剤を選択し、患者のライフ・スタイルに応じた睡眠衛生指導・認知行動療法を行うことが肝要である。本講演を通じてフレイルや認知症が合併していても有害事象の最小限化を考慮できる不眠症治療の実践につながることを期待したい。

ランチョンセミナー 5 神経疾患の診断を目指した新たなバイオマーカー研究

11月24日（金） 12時20分～13時10分（第5会場 奈良県コンベンションセンター 2F 会議室 204）

共催：富士フィルム和光純薬株式会社

座長：嶋田 直人（富士フィルム和光純薬株式会社）

1. 認知症および神経変性疾患の血液バイオマーカーのトピックス

演者：徳田 隆彦（国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構）

2. 血液を巡る脳組織由来細胞外小胞：神経疾患のモニタリングを目指して

演者：村岡 賢（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所）

（概要）演者1. 疫学的にカフェイン摂取がパーキンソン病（PD）の発症リスクを低下させることが知られている。独自に開発したカフェイン ELISA を用いて定量した血液中カフェイン濃度は、2つの患者コホートとともに、PD 群では対照群よりも低値であった。我々のカフェイン ELISA は PD の補助診断に有用である可能性がある。

演者2. 血液中にはあらゆる組織から分泌された細胞外小胞が混在している。由来する組織によって、細胞外小胞を精製することができれば、診断の感度、精度が向上すると考えられる。本発表では、血液中の脳組織由来の細胞外小胞を精製するための標的タンパク質の選択方法について紹介する。

ランチョンセミナー 6 早期アルツハイマー病に対する低出力パルス波超音波治療の開発

11月24日（金） 12時20分～13時10分（第6会場 奈良県コンベンションセンター 2F 会議室 205）

共催：サウンドウェーブイノベーション株式会社

座長：荒井 啓行（東北大学）

演者：下川 宏明（サウンドウェーブイノベーション株式会社／国際医療福祉大学／東北大学）

（概要）アルツハイマー病の病態生理に脳血管の機能不全に伴う循環障害の関与が示唆されている。開発者の下川は、低出力パルス波超音波（LIPUS）治療がアルツハイマー病および血管性認知症のモデルマウスにおいて有効で安全であることを明らかにした。作用機序として、血管内皮における内皮型 NO 合成酵素等の発現亢進に伴う慢性炎症の改善が関与していることも明らかにした。次いで、早期アルツハイマー病患者を対象に探索的治験を実施したところ、同様に有効性と安全性が示唆され、厚労省から昨年9月に先駆的医療機器に指定された。これらの結果に基づき、今回、検証的治験を開始した。

ランチョンセミナー 7 レビー小体型認知症におけるパーキンソニズム

11月24日(金) 12時20分～13時10分 (第8会場 JW マリオット・ホテル奈良 2F 吉野)

共催: 住友ファーマ株式会社

座長: 橋本 衛 (近畿大学医学部精神神経科学教室)

演者: 森 悦朗 (大阪大学大学院連合小児発達学研究科行動神経学・神経精神医学寄付講座
／東北大学名誉教授)

(概要) パーキンソニズムはレビー小体型認知症 (DLB) の中核的特徴の一つである。DLB 患者において、パーキンソニズムは認知障害や精神症状とともに、患者の QOL や ADL を障害し、介護者の負担を増す。DLB とパーキンソン病は、レビー小体病として同じスペクトラム上にあると考えられているが、DLB 患者におけるパーキンソニズムの診断と治療の戦略はパーキンソン病患者のそれとは若干異なっている。

この講演では、DLB 患者におけるパーキンソニズムの臨床特徴を整理し、さらに認知障害や精神症状をより意識した DLB 患者に特化した、パーキンソニズムの治療について考察する。

ランチョンセミナー 8 抗 Aβ 抗体レケンビのもたらす治療価値に関して

11月25日(土) 12時20分～13時10分 (第1会場 奈良県コンベンションセンター 1F コンベンションホール A)

共催: エーザイ株式会社／バイオジェン・ジャパン株式会社

座長: 岩坪 威 (東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野)

演者: 岩田 淳 (東京都健康長寿医療センター脳神経内科)

(概要) 2022年11月にCTADがサンフランシスコで開催され、レカネマブの第III相臨床試験 (Clarity AD) の結果が発表された。アルツハイマー病治療がついに新たな一歩を踏み出すこととなった。また、同時に The New England Journal of Medicine にも Clarity AD の結果は発表され、瞬く間に全世界へレカネマブの情報が発信された。

本セミナーでは、レカネマブの治療に必要なバイオマーカーに関する話題からレカネマブの臨床試験並びに実臨床でどのように実装していくかを見据えて解説する。

ランチョンセミナー 9 Assessment and Management Toolkits for Lewy Body Dementia

11月25日(土) 12時20分～13時10分 (第2会場 奈良県コンベンションセンター 2F 天平ホール)

共催: 住友ファーマ株式会社 メディカルサイエンス部

座長: 池田 学 (大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室)

演者: Alan Jeffrey Thomas (Professor of Old Age Psychiatry, Newcastle Biomedical Research Centre, Newcastle University, United Kingdom)

(概要) As part of the UK NIHR funded five-year DIAMOND Lewy research Programme, funded to improve the identification, assessment and care of people with Lewy body dementia, we developed and published a set of assessment and management toolkits. Several research papers related to these have been published (doi:10.1002/gps.4609; doi.org/10.1186/s13195-021-00786-8; http://dx.doi.org/10.1002/mds.28282). The assessment toolkit encourages a systematic assessment for core features of DLB in both memory clinic and movement disorder clinic settings. A 2021 study showed that use of the toolkits was associated with a 35% increase in the diagnostic rates of DLB. The management toolkit is structured around target symptoms in five domains (cognitive, neuropsychiatric, sleep, autonomic and parkinsonian) with advice about pharmacological and non-pharmacological treatment options for symptoms in each domain. These two toolkits will be presented and discussed in this lunchtime seminar.

ランチョンセミナー 10 認知症とBPSD

11月25日(土) 12時20分～13時10分 (第3会場 奈良県コンベンションセンター 2F 会議室 201+202)

共催: 大塚製薬株式会社 メディカル・アフェアーズ部

座長: 新井 哲明 (筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学)

1. BPSDの評価と治療～非薬物治療を中心に～

演者: 橋本 衛 (近畿大学医学部精神神経科学教室)

(概要) BPSDはほとんどの認知症患者に出現し患者や家族に多大な負の影響をもたらす一方で、適切な治療により改善が期待できる症状である。BPSDは、①脳障害に直接起因するBPSDと、②心理反応として引き起こされるBPSDに大別される。前者に関しては、例えばアルツハイマー病では、海馬や扁桃体などの辺縁系が障害され、不安や易怒性などの情動面の不安定さが引き起こされる。一方後者については、喪失体験や周囲環境の変化に対する患者の心理反応としてBPSDが引き起こされる。実臨床では、患者の症状を適切に評価し、BPSDの背景にある要因を見極め、要因に応じた治療の実施が望まれる。そこで本セミナーでは、BPSDの評価と治療について、非薬物治療を中心に概説する。

ランチョンセミナー 11 診療に役立つアミロイドPET 徹底ガイド—基本からピットフォールまで—

11月25日(土) 12時20分～13時10分 (第4会場 奈良県コンベンションセンター 2F 会議室 203)

共催: 日本脳神経核医学研究会・日本核医学会・日本メジフィジックス株式会社

座長: 小野賢二郎 (金沢大学医薬保健研究域医学系脳神経内科学)

演者: 石井 賢二 (東京都健康長寿医療センター認知症未来社会創造センター)

(概要) アルツハイマー病に対する抗アミロイド抗体薬の治療対象者選択にはバイオマーカー(アミロイドPETまたは脳脊髄液)によるアミロイド病理の存在確認が必要となる。アミロイドPETはガイドラインに従い核医学の専門医師のもとで実施・読影され、陽性または陰性の結果が依頼医師に返却される。認知症の専門医師は返却された結果をどのように解釈し診療に適用すれば良いのか。陽性・陰性の情報のみで十分なのか? 境界領域の症例をどう扱うか? 臨床的確信と異なる結果が返ってきた場合にどうするか? 定量値や統計画像、脳内分布などの情報をどう理解すれば良いのか? 本セミナーでは診断の意義や制約も含め、症例を提示しながら解説する。

ランチョンセミナー 12 これからの高齢者の便秘症治療

～介護・看護と排便ケア, 便秘薬を中心に～

11月25日(土) 12時20分～13時10分 (第5会場 奈良県コンベンションセンター 2F 会議室 204)

共催: EAファーマ株式会社/持田製薬株式会社

座長: 三村 将 (慶應義塾大学予防医療センター)

演者: 中村 祐 (香川大学医学部精神神経医学講座)

(概要) 慢性便秘症は高齢者の有病率が高く、慢性便秘症をきたす様々な基礎疾患がある。精神科の診療では慢性便秘症が多い。神経障害の観点から慢性便秘症と認知症を見ると、併存しやすい理由がわかる。認知症患者の介護者を対象にした調査では、排便に関する対応が介護者の大きな負担になっていることが明らかになっている。このたび発刊された便通異常症診療ガイドライン2023には、診断治療フローチャートが初めて示され、慢性便秘症治療薬の新たなエビデンスが追加された。最新ガイドラインを参照しながら、高齢者に焦点をあてた慢性便秘症治療を考える。

ランチョンセミナー 13 認知症診断・治療の幕開けと将来への期待

11月25日(土) 12時20分～13時10分 (第8会場 JW マリオット・ホテル奈良 2F 吉野)

共催：株式会社島津製作所

座長：望月 秀樹 (大阪大学大学院医学系研究科神経内科学講座)

1. アルツハイマー病：早期血液診断・治療ワークフロー／エコシステムの構築

演者：松原 悦朗 (大分大学医学部神経内科学講座)

2. 認知症 DMT 時代に押さえておくべき PET の役割

演者：島田 齊 (新潟大学脳研究所統合脳機能研究センター臨床機能脳神経学分野)

(概要) 認知症はアルツハイマー型認知症だけでなく、他のタイプの認知症もあり、また合併することも少なくありません。そのため、適切な治療を選択するには、認知症の鑑別やステージングが重要になると考えられます。そこで、鑑別やステージングにおいて重要な役割を担うと期待されるバイオマーカー (アミロイドβ, タウ, NFL, など) 検査について、リキッドバイオマーカー検査とイメージングバイオマーカー検査 (主に PET 検査) の2方面から、先生方に最新情報を交えながらご講演を頂きます。

ランチョンセミナー 14 アルツハイマー病画像バイオマーカー診断の現状と展望

— ATX (N) と NIA-AA 2023 —

11月26日(日) 12時10分～13時00分 (第1会場 奈良県コンベンションセンター 1F コンベンションホールA)

共催：日本イーライリリー株式会社

座長：岩田 淳 (東京都健康長寿医療センター脳神経内科)

演者：石井 賢二 (東京都健康長寿医療センター認知症未来社会創造センター)

(概要) アルツハイマー病疾患修飾薬の実用化と共に、これまで主として研究開発目的で使われてきたバイオマーカー診断が日常認知症診療の中に実装されようとしている。認知症の診断・治療は「臨床症状にもとづく診断と対症療法」から、「バイオマーカーによる診断と疾患修飾治療」へと大きな転換期を迎えた。本セミナーでは画像バイオマーカーを中心に、アルツハイマー病の ATX (N) 診断体系の現状と診療実装に向けた展望について考察する。特に今年改訂が予定されている National Institute on Aging と Alzheimer's Association によるアルツハイマー病診断ガイドライン (NIA-AA2023) の概要と方向性について詳しく紹介したい。

ランチョンセミナー 15 COVID-19 後遺症としての認知機能障害—病態機序と治療の展望—

11月26日(日) 12時10分～13時00分 (第2会場 奈良県コンベンションセンター 2F 天平ホール)

共催：モデルナ・ジャパン株式会社

座長：高尾 昌樹 (国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院臨床検査部総合内科)

演者：下畑 享良 (岐阜大学大学院医学系研究科脳神経内科学分野)

(概要) COVID-19 後遺症として認知機能障害が生じることが示されている。危険因子としては、高齢者、重症感染、嗅覚障害の長期間の持続が報告されている。また COVID-19 はアルツハイマー病発症の危険因子となることや、軽症感染でも視空間認知障害を呈しうることも報告されている。複数の病態機序が議論されているが、治療に直結する可能性がある SARS-CoV-2 ウイルスの持続感染が注目されている。持続感染は、スパイク蛋白による神経毒性、サイトカインによる神経炎症の惹起、細胞融合などを介して認知機能障害を引き起こす可能性がある。予防・治療としてはワクチン接種、メトホルミン、抗ウイルス薬等が期待されている。

ランチョンセミナー 16 アルツハイマー病病態における蛋白凝集体の病的意義を考える

11月26日(日) 12時10分～13時00分 (第3会場 奈良県コンベンションセンター 2F 会議室 201+202)

共催: エーザイ株式会社メディカル本部/バイオジェン・ジャパン株式会社

座長: 池田 学 (大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室)

演者: 小野賢二郎 (金沢大学医薬保健研究域脳神経内科学)

(概要) 現在, アルツハイマー病 (Alzheimer's disease: AD) の研究・治療の方向性として, 今までの神経伝達物質からのアプローチから, 疾患修飾療法を目指した病理学, 生化学 (蓄積蛋白) からのアプローチに移ってきている. 後者に関しては, アミロイド仮説に基づいた病態研究の成果が実を結び出している. 脳アミロイドとして最終的に蓄積するアミロイドβ蛋白 (amyloid β-protein: Aβ) 線維の多様性に加えて, オリゴマーやプロトフィブリルといった早期・中間凝集体の病的意義は, AD だけでなくレビー小体病でも注目され出している.

ランチョンセミナー 17 明日から変わる DLB 診療

～最新のエビデンスから BPSD とパーキンソニズムのトレードオフのジレンマを解消する～

11月26日(日) 12時10分～13時00分 (第4会場 奈良県コンベンションセンター 2F 会議室 203)

共催: 住友ファーマ株式会社

座長: 高橋 良輔 (京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座臨床神経学)

演者: 小林 良太 (山形大学医学部精神医学講座)

(概要) レビー小体型認知症 (DLB) は, 認知症状のみならず, パーキンソニズム・自律神経症状等の身体症状や幻視・妄想等の精神症状を呈する. 身体症状や精神症状の併存は介護負担を増大させる為, DLB は認知症の中でも介護負担の大きい疾患である. その為早期診断は勿論の事, 患者や介護者の治療ニーズを紐解き, 多様な症状に対するトータルケアを考える事が肝要である. しかし, 多様な症状を呈する DLB の治療にあたる上で, 精神症状と他の症状の治療バランスにジレンマを感じる事も少なくない. 本講演では DLB の多様な症状の中でも, 精神症状とパーキンソニズムに焦点を当て, トレードオフにならない DLB 診療について, 最新のエビデンスも交えながら検討する.

ランチョンセミナー 18 治療に役立てる認知症の画像診断

11月26日(日) 12時10分～13時00分 (第5会場 奈良県コンベンションセンター 2F 会議室 204)

共催: PDR ファーマ株式会社

後援: 日本脳神経核医学研究会/日本核医学会

座長: 川勝 忍 (福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座)

演者: 和田 健二 (川崎医科大学認知症学)

(概要) 認知症診療の第一歩は診断である. 診断過程においては, 認知症あるいは軽度認知障害の有無を総合的に判断するために認知機能, 日常生活活動や行動・心理常用を包括的に評価する. 認知症や軽度認知障害の状態が考えられた際には脳脊髄液検査や画像検査を行いながら, 臨床所見とともに背景疾患を鑑別診断していく. なかでも, 画像診断は認知症疾患の鑑別において中心的な役割があり, CT や MRI などの形態画像のみならず, 脳血流 SPECT やアミロイド PET などの核医学検査も重要な位置づけとなっている. 本セミナーにおいて, 認知症の画像検査について解説する.

ランチオンセミナー 19 加齢による認知機能低下と漢方の可能性

—認知症とフレイルの接点を求めて

11月26日(日) 12時10分～13時00分 (第8会場 JW マリオット・ホテル奈良 2F 吉野)

共催: クラシエ薬品株式会社

座長: 神崎 恒一 (杏林大学医学部高齢医学)

演者: 大田 秀隆 (秋田大学高齢者医療先端研究センター)

(概要) 秋田県は「日本一の少子高齢化」を迎えており、この状況に対応するため、秋田大学高齢者医療先端研究センター (Advanced Research Center for Geriatric and Gerontology, Akita University (ARGG)) を設置しております。当センターでは、高齢者に特に多い認知症やフレイルなどの疾患をターゲットに絞りながら、老化関連疾患の原因・治療・予防についての研究を行うことを主な目的としています。今回の発表では、当センターの研究によりわかってきた高齢者の認知機能障害やフレイルの特徴、さらに認知症やフレイルの接点から、漢方治療の可能性についてご紹介したいと思います。

【モーニングセミナー】

モーニングセミナー 1 アミロイドβ 診断 臨床実装の幕開け

11月25日(土) 8時00分～8時50分 (第2会場 奈良県コンベンションセンター 2F 天平ホール)

共催: エーザイ株式会社/バイオジェン・ジャパン株式会社

座長: 秋山 治彦 (横浜市立脳卒中・神経脊椎センター臨床研究部)

1. 抗Aβ抗体薬時代におけるCSFバイオマーカーの適正使用

演者: 春日 健作 (新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター遺伝子機能解析学分野)

2. アミロイドPET検査のこれから

演者: 石井 賢二 (東京都健康長寿医療センター研究所神経画像/AI診断システムチーム)

(概要) レケンビの登場により、従来の診断法から新たな診断法へと大きく変化する過渡期を迎えた。各アミロイドβ検査に係る適正使用指針/ガイドラインを理解したうえで、アミロイドβ検査の臨床使用が肝要である。「認知症に関する脳脊髄液・血液バイオマーカー適正使用指針」では、バイオマーカー測定の意義、腰椎穿刺の実施、臨床使用の適正化について触れられている。「アミロイドPETイメージング剤の適正使用ガイドライン」では、薬剤製造認証・撮像施設認証・読影の観点から学会の推奨基準が明記されている。アミロイドβ検査体制の確立により、適切な患者様へのレケンビ投与につながるため、適正使用指針/ガイドラインの遵守が求められる。

モーニングセミナー 2 アルツハイマー病 体液バイオマーカー研究の最前線～臨床応用に向けて～

11月25日(土) 8時00分～8時50分 (第3会場 奈良県コンベンションセンター 2F 会議室 201+202)

共催: 日本イーライリリー株式会社

座長: 岩坪 威 (東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻神経病理学分野)

演者: Sebastian Palmqvist (Clinical Memory Research Unit, Lund University, Lund, Sweden)

池内 健 (新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター)

(概要) 近年、アルツハイマー病疾患修飾薬の研究開発に伴って、PETイメージングや体液バイオマーカーによるアルツハイマー病理に基づいた診断技術に注目が集まっている。その中でも特に血液バイオマーカーの技術進歩は著しく、科学的な検討に加えて臨床現場での活用を視野に入れた検討が喫緊の課題となってきている。本セッションでは、欧州における血液バイオマーカーによるアルツハイマー病理に基づいた診断の最新研究だけでなく臨床現場での活用に向けた最新検討、さらには本邦における適正使用に向けての取り組みまで幅広く紹介し、その後パネルディスカッションで臨床応用に向けての機会や課題を議論する。

モーニングセミナー 3 Dementia における分散型臨床試験の lessons learned と展望

11月25日(土) 8時00分～8時50分 (第4会場 奈良県コンベンションセンター 2F 会議室203)

共催: IQVIA ジャパン グループ

座長: 古和 久朋 (神戸大学大学院保健学研究科リハビリテーション科学領域)

演者: 岩田 淳 (東京都健康長寿医療センター脳神経内科)

(概要) デジタル化やグローバル化が進む中、新型コロナパンデミックは「オンライン」「リモート」「タッチレス」といった新たな社会様式を加速させるきっかけになった。そのような中、行政当局や業界団体が推進してきた「来院に依存しない分散型臨床試験 (DCT: Decentralized Clinical Trials)」は、新型コロナワクチン・治療薬の開発で、あらためてその有用性が認識されることとなった。今後も DCT が持つ様々な要素が従来の治験プロセスに取り込まれ、臨床開発をより洗練させていくものと思われる。本セミナーでは我々の DCT の経験に基づき、今後の展望を考察する。

モーニングセミナー 4 認知症とてんかん～認知症専門医・てんかん専門医 それぞれの立場から～

11月25日(土) 8時00分～8時50分 (第5会場 奈良県コンベンションセンター 2F 会議室204)

共催: 東和薬品株式会社

共同座長・共同演者: 橋本 衛 (近畿大学医学部精神神経科学教室)

貴島 晴彦 (大阪大学大学院医学系研究科脳神経外科学)

大阪大学医学部附属病院てんかんセンター)

(概要) 本モーニングセミナーでは認知症とてんかんについて、認知症専門医とてんかん専門医の立場から共同演者、共同座長の形式で講演いたします。高齢者の増加に伴い認知症が大きな社会問題の一つに挙げられています。その一方で高齢者のてんかん患者も増加していることはよく知られています。これらの疾患は時に鑑別が困難であり、また2つの疾患が合併することもあります。これらの疾患の特徴や鑑別、治療についてそれぞれの専門医が、知識の確認・ブラッシュアップに役立つように、実臨床の視点から検討いたします。多数のご聴講をお待ちしております。

モーニングセミナー 5 抗 A β 抗体薬時代におけるアルツハイマー病の早期診断の勘所

11月26日(日) 8時00分～8時50分 (第2会場 奈良県コンベンションセンター 2F 天平ホール)

共催: エーザイ株式会社/バイオジェン・ジャパン株式会社

座長: 三村 将 (慶應義塾大学予防医療センター)

演者: 橋本 衛 (近畿大学医学部精神神経科学教室)

(概要) アルツハイマー病 (AD) の抗 A β 抗体薬の臨床適用も間近に迫り、臨床現場では AD の早期診断の重要性が高まっている。抗 A β 抗体薬を導入するためには、アミロイド PET や脳脊髄液検査で A β の存在を確認する必要があるが、これらのバイオマーカーは、コストや侵襲の大きさ、実施可能施設が限定されることなどの課題があり、早期 AD が疑われて受診する全ての患者に実施できるわけではない。そのため病歴や臨床症候、MRI などの脳画像検査結果などから、AD らしい人をスクリーニングすることが肝要となる。そこで本セミナーでは、どのような患者に AD らしさを感じ取るのか、その勘所を中心に述べて行く。

モーニングセミナー6 アルツハイマー病・疾患修飾薬時代における脳脊髄液バイオマーカー検査

共催：富士レビオ株式会社

11月26日（日） 8時00分～8時50分（第3会場 奈良県コンベンションセンター 2F 会議室 201+202）

座長：岩坪 威（東京大学大学院 医学系研究科神経病理学分野／

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター神経研究所）

演者：池内 健（新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター）

（概要）抗アミロイドβ抗体薬・レカネマブが薬事承認を受け、実臨床への応用が間近となった。疾患修飾薬の登場により、バイオマーカーの実臨床での活用が大きく変わろうとしている。レカネマブの治療対象者を選別するために、脳内アミロイドβ蓄積の存在を脳脊髄液検査もしくはアミロイドPET検査で確認することが求められる見込みである。これらアミロイドβ検査体制の構築において、認知症診療にかかわる専門医の役割は大きく、アミロイドβ検査を適切に実施し、抗アミロイドβ抗体薬につなげる医療体制を構築することが期待されている。本セミナーでは、疾患修飾薬の実用化を見据え、脳脊髄液バイオマーカーの役割について考える機会としたい。